

# 「探究活動」のすすめ

## Vol.6 言葉の意味・定義への理解

一般社団法人Glocal Academy 理事長  
物理学博士  
岡本 尚也 氏

前回（第五回）の記事では、新学習指導要領に対応するための組織・体制作り、必要な職員会議の改善方法について紹介しました。今回からは、実際の指導の際の留意点、工夫の仕方、特に言葉の意味・定義の理解の重要性について説明します。

### ① 抽象的な言葉と深い学び

多くの学校で課題研究・探究的な学習が進められていますが、共通して見られる問題点として、「言葉」の意味や定義を理解しないまま、進めてしまっているという事が挙げられます。例えば、「我々の住んでいる地域の活性化を目的とし…」という説明をしている生徒に「活性化とは何ですか?」と聞くと、「え…」と言葉に詰まってしまう姿が多く見られます。この時、その生徒の使用している「活性化」という言葉には次のような意味が考えられます。人口、特に若年層人口の増加、地域の経済活動が盛んになり地域のGDPに相当する金額が上昇する、地方自治体の税収の増加、その市で行われるお祭りの動員人数の増加等。つまり、この「活性化」という言葉には、多くの意味が内包されているため、非常に「大きな」言葉です。つまり多くの論点を見えなくしてしまう言葉といっても過言ではありません。そのまま論点を絞らずに研究、探究活動を始めてしまうと、どことなく当たり障りのない言葉を並べただけのものになってしまいます。このように大きな言葉を用いた抽象的な研究・探究ではなく（これを英語にして満足してしまうと問題です）、小さくても具体的な研究・探究が深い学びとなります。その際

に、使用する言葉の意味・定義の具体化が第一に大切なことです。

### ② 言葉の意味や定義が定められている場合

「知っている言葉」は多くても「理解している言葉」が少ない場合は注意が必要です。例えば、「高齢化」や「空き家」について研究している生徒は本当にそれらの言葉の定義を理解しているでしょうか? 何となく「高齢者人口が多くなっているから高齢化」、「人が住んでいないから空き家」というのはその定義からずれた状態で使っている場合があります。高齢化、空き家、貧困、高齢者、等のように、その言葉の意味や定義が自分の外（国や自治体、国際的な規定）にあるものは、必ずそれを確認・引用し使うようにしましょう。また一方で現在使われている言葉の定義を変更した方が良い場合があります。例えば、超高齢社会である日本において「高齢者」の定義は本当に65歳以上が良いのか? という議論は今後生じてくるでしょうし、課題研究の中で再定義の提案を行うことも良いと思います。

### ③ マジックワードは言い換えを

前述の「活性化」のような言葉は課題研究・探究活動において大変多く見られる言葉です。同じような例として「平和」や「平等」、「安全」のような言葉があります。これらは抽象的で具体性がない分、大勢にとって馴染みやすく、多くの場合「誰も反対をしない」言葉なので、スローガンとして用いる際

には、魔法のような効果を生みます（拙著「課題研究メソッド」ではマジックワードと呼んでいます）。しかし、前述のように問題点を不明瞭にしてしまい、深い学びを妨げてしまいます。では、なぜこのような言葉を生徒の皆さんの多くが使用するのでしょうか? これまでの成長過程において、このようなマジックワードを用いると褒められる経験をしているという事も一つの理由でしょうが、多くの場合「自分の頭の中にあるイメージをうまく言語化できていない」事が理由です。学校現場では、この際に「言葉の言い換え」を行うことでこの問題を解決する事ができます。例えば「平和な社会」の実現という言葉を生徒が使用した際に、平和な社会を〇〇な社会とし、平和なという言葉の説明してもらいます（例：平和な社会 ⇒ 犯罪のない社会 ⇒ 若者が犯罪に手を染めない社会 ⇒ …）。これを繰り返し、多くの人が共通の事柄を認識できるようになった場合、生徒が初めにイメージしていた言葉が具体化された事になります。もし、このように具体化していく中で適切な言葉が浮かばない場合は、必要な知識や理解が不足しているため、関連する本や新聞記事等から情報を集めながら進めていく事をおすすめします。

例：高校生の課題研究にてよく使われるマジックワード

平和、平等、活性化、活発、グローバル、より良い〇〇、最適な、適した、〇〇に優しい、健康、生き生き、重要な、有効な、等

このようなマジックワードの中には、生徒の考え

る理想や希望等主体的な学びに繋がるキッカケが含まれている場合がとて多いです。是非、使用する（読む際にも確認が必要）言葉の意味・定義をしっかりと身に付け、マジックワードに関しては、言い換えを行う中で、生徒の考えている主体性のキッカケを是非引き出してみてください。



(写真)  
課題研究メソッド Startbook（新興出版社啓林館）  
岡本尚也著 / 課題研究メソッド

### 岡本 尚也 氏 プロフィール



1984年、鹿児島県に生まれる。慶應義塾大学理工学部卒、同理工学研究科修士後、ケンブリッジ大学にて物理学博士号を取得。その後、オックスフォード大学にて日本学修士号を取得。ケンブリッジ大学在学中の研究成果がNature Materials等、世界トップジャーナルに論文が掲載された。帰国後、一般社団法人Glocal Academyを創業し、社会や学術における諸課題を研究的手法を用いて解決する事を目的とし、後進の育成やそれら課題に取り組む個人及び企業・団体を支援している。